萬葉集略解

十一下

柳田文庫
文庫11
A 104
16

日文研
2
一

中西印刷株式会社

夢谷何鴨不所見雖所見吾鴨迷戀茂雨
いめふたよなとともみくぬみゆれとも われもまとこ ひのまはきふ
爰ふハくゆあれと忘ふ名のまくひて ひくこ ひてゆくこ ひて見てやあくんくと迦
名草漏心莫二如是耳戀也度月日殊
なぐさこるこ ろつふきふ ふかくこのみ こいやわくこんやきこ ひこけに
或本歌云奥津浪敷而耳八方戀度奈武
おきつなみしきてのみやもこひわたるかな
何為而忘物吾妹子丹戀益跡所忘莫苦二
いかすして わするもあてわぎもこに こひまされとわすらえなくに
いかすしてわするもあてわぎもこに こひまされとわすらえなくに
遠有跡公衣戀流玉桙乃里人皆雨吾戀八方
こほうれときみをそこるたまほこの さとひとみなあめこひめやも

文室11
A 104
16

柳田泉文庫

48 10654

君が行くの道の里人といふとて、玉桙の枕詞と即道にありていへる
んハ道遠くて、君をむかへて、あらしくにをんやよく玉かくのなしといふぞ
してさもちれたのうとせる例、冠辞考にくはしくされたるを

驗無戀毛為鹿暮去者人之手枕而将寐兒故

しるしなきこひをもするかゆふさればひとのてまきてねなんこゆゑに
しるしなきハかひなきなり、児ならハ児なるゆゑ人のよるふをとなく
よろしくもなし

百世下千代下生有目八方吾念妹乎置嘆

もゝよしもちよしもいきてあらめやもわがおもふいもをおきてなげかん
歌ハ俗あれバ吾が妹を遣ハむとして来るなげかんやといへる

現毛夢毛吾者不思寸振有公爾此間将會十羽

うつゝにもいめにもわれハおもはざりきふりたるきみにこゝにあハんとハ

ふるきハかくありしおもひよらぬ事ぞといふへ人をおもひつゝる　た
古集に古人ふれバ袖ぞぬれぬると云に同じ

黒髪白髪左右跡結大王心一乎今解目八方

くろかみのしろかみまでとむすびてしこゝろひとつをいまとかめやも
大王とハ君の事にて周の語にいへり　ちぎりしこゝろをかハらじといふを
結とよみつけて解とハいへり

心乎之君爾奉跡念有者縦比来者戀乍乎将有

こゝろをしきみにまつるとおもへればよしこのごろハこひつゝをあらん
心をしのしハ助辞、まつるハまゐらする意、来ハこのごろといふこゝろと云之

念出而哭者雖泣灼然人之可知嘆為勿謹

おもひでゝねにハなくともいちしろくひとのしるべくなげきすなゆめ

玉桙之道去夫利爾不思妹乎相見而戀比鴨

候ヲ侯二誤

たまぼこのみちゆきぶりをおもはぬにいとをあひみてこころぐるしも

[illegible]

人目多常如是耳志候者何時吾不戀將有

ひとあおおみつねかくのみしさもらばいづれのときかわがこひざらん

候と、侯とは、古なりとて改つ、はらぶべし、何ものとて、人目とのこゝろ

づかひてあるべきなり

敷細之衣手可禮天吾乎待登在濫子等者面影爾見

しきたへのころもでかれてあをまちあるらんこらはおもかげにみゆ

しきたへの枕詞、衣のかれて、はなれる紐をとり離れてゝ、さとるなり

[illegible]

妹之袖別之日後白細乃衣片敷戀管曾寐留

いもがそでわかれしひよりしらたへのころもかたしきこひてぞぬる

白細之袖者開結奴我妹子我家當乎不止振四二

しらたへのそでとはむすびぬわぎもこがいへのあたりをやまずふりしを

[illegible]

和名抄紙万与布一云与流、繒斂壞也とて、[illegible]

[illegible]て度し振[illegible]

たぐひ

夜干玉之吾黑髮乎引奴良思亂而反戀度鴨

ぬばたまのわがくろかみをひきぬらしみだれてかへりこひわたるかも

ぬばたまの枕詞[illegible]

[illegible]

巳の條[illegible]

[illegible]

紐ヲ級二誤

夜ハ後ノ誤

今ヲ令二誤

今更君之手枕巻宿米也吾紐緒乃解都追本名

いまさらにきみがたまくらまきねめやわがひものをのとけつゝもとな

紐のをのとくるハ人をこひしさのまさるとなよしもなくこほしとなり

白細布乃袖觸而夜吾背子爾吾戀落波止時裳無

しろたへのそでふれてよわがせこにわがこふらくハやむときもなし

夜ハ後の字の誤なるべし

夕卜爾毛占爾毛告有今夜谷不来君乎何時将待

ゆふけにもうらにものれるこよひだにきまさぬきみをいつとかまたん

夕けハ衢の占也、たゞ占といふハ龜の甲を焼占也

眉根掻下言借見思有爾去家人乎相見鶴鴨

まゆねかきしたいぶかしみおもへるにいにしへびとをあひみつるかも

下いぶかしみハ心にいぶかしく思ふといふ事なり、言借

去家ハ借字也

或本歌曰眉根掻誰乎香将見跡思乍氣長戀之妹爾相鴨

一書歌曰眉根掻下伊布可之美念有之妹之容儀乎今日見都流香裳

敷栲乃枕巻而妹與吾寐夜者無而年曽經来

しきたへのまくらをまきていもとわれぬるよハなくてとしぞへにける

さいたまのぬきかはのせのやりたまくらやりくのぬるよハなくておやさくる妻

奥山之真木之板戸乎音速見妹之當乃霜上爾宿奴

おくやまのまきのいたどをおとはやみいもがあたりのしものへにねぬ

奥山の枕詞、おとはやしハ板戸をあけバ音のはやしきをいふ、さてその戸を

明けバ音のかしがましければ妹があるべき時結ぶとてあけずして結べ

是日木能山櫻戸乎開置而吾待君乎誰留流

あしびきの山桜戸を開置而吾待君乎誰留流

山桜戸は山本の戸杉の戸などいふ如く樹の板戸へ古へは皆とき板なり

いづれの木ぞと問ふ人を問のあやみ桜戸といふへ初句に山さくらといふ

むろの木の根ゆくゝ山伝のゆとりてあるあしぶは戸を開置くなり

小たゞの海ふかゝ長ゝ来まくぬしを

月夜好三妹二相跡直道柄吾者雖来夜其深去来

つきよみしもふあしんゝたゞちのゝわれはきつれどよゝでもけふける

たゞちは大道のかのをゝといふ

寄物陳思

朝影雨吾身者成幸衣欄之不相而久成者

あさかげゝわがみはなりぬかゝるとゝのあはずてひさしくなれば

朝日の射まさるに付人新の如くゆゝと新しひとくさてき新のゝ

和名抄に癌とくるもの也と云へり韓之考に可良許呂毛と

のゝちうへあねどもとよみくゝ古へ斜人の衣の裔あはぎりゝん反也衣と

むくゝかゝれとしてはゝ見へ人もそのあはぬと時る逢はたくてかく

いひしゝ

解衣之思亂而雖戀何如汝之故跡問人毛無

ときでめのおもひみだれてこふれども何ぞゆゑとふひともなき

巻十二解衣のゝ乱てこふれども何之故(ナニヲ)(ユエ)問人もなしと俗人信れ

ることゝはなのゝあれゝ

摺衣著有跡夢見津癌者孰人之言可将繁

すりぎぬきたりとゆめみつゝ癌者孰人之言可将繁

癌ゝ牛病ともゝ誤ゝ古へ改ゝ衣の衣は形を染るもの也

癌ゝ牛病ともゝ誤ゝ古へ改ゝ

さらぬをあさぢやのあるゝ物としてさのれば□心の取りたりしかども、いづれの人にも痛くいたれしむしんといへるの又拵衣は必ずへにさる趣也宗取れて人にさげさん表の意の写此歌七衣のこぞめのぬかしまゝてよる取きて見るなるものしらでも人にもといひたるさんにこゝと是は皆これき、若有洞きるさしよみたれど、有のまゝあれば、宝さかけてとよみし、けるは未ありしとの二ふ丁集中傷のと此二句はたゞ左へ写ひひすかしもるまみく、それは此のしと宝

志賀乃白水郎之塩焼衣雖穢恋云物者忘金津毛

しかのあまのしほやきごろもなれぬれどこひといふものはわすれかねつも

肥おの志可の白水此賀は清く濁よとはちもてといへる序のて、穢くは衣よまるゝゆくへきい人に馴るとふ巻十二大王の塩やくあまのふぢ衣なれはすれどもいやめづらしもといふがごとし

呉藍之八塩乃衣朝旦穢者雖為益希将見裳

くれなゐのやしほのころもあさなさななれはすれどもいやめづらしも

やしほの衣とは古事記に八塩折之紐小刀とありて幾度も染めしをいふ、さて朝な朝なと思へば濃く深く染めしをいふ、さておよは打ちのちと思ひて、やがていて、それよりはなほしといへる序のて

紅之深染衣色深染西鹿歯蚊遺不得鶴

くれなゐのこぞめのころもいろふかくそみにしかばかわすれかねつる

巻十六に保ち深く染めしんにもちらの紅よくものへぬべきとしよう兄をも

不相爾夕卜乎問常幣爾置爾吾衣手者又曽可続

あはなくにゆふけをとふとぬさにおくにわがころもではまたぞつぐべき

夕卜問はすじくよるわざなれど、わさるれば幣代物は多く、さらくせるゝ衣の紙は、又も後つべきものなしく、解てぬさとするといへり、古は、幣よ

[illegible]

古衣打棄人者秋風之立来時爾物念物其

[illegible]

波禰縁今為妹之浦若見咲見愠見著四紐解

はねのづ[illegible]いまもるいとのうらわのみちをみつけ[illegible]

[illegible]

去家之倭文旗帯乎結垂孰云人毛君者不益

いうへのたつたのおびをむすびたれたれとかひとりきみをまつ

[illegible]

一書歌古之狭織之帯乎結垂誰之能人毛君爾波不益

狭織の倭文の狭く織るまに〻〻乎結垂人るゝゆゑ今さなるとい

て何を細あるに狭之機のきちをくきよう冠絡考ふいて

不相友吾波不怨此枕吾等念而枕手左宿座

あはずとしわれはうらみじこのまくらわれとおもひてまくらてさねる

[illegible]

結紐解日遠敷細吾木枕蘿生来

ゆへるひもときてひとりみ[illegible]

[illegible]

夜干玉之黒髪色天長夜叫手枕之上爾妹待覧蚊

[illegible]

ぬぐくまのくろかみ[illegible]

[illegible]

真素鏡直二四妹平不相見者我戀不止年者雖經

まそかがみたぐふいもとあひみずはわがこひやまむとしは雨ぬとも

真十鏡手取持手朝旦見人時禁屋戀之將繁

まそかがみてにとりもちてあさたにみるひとときさへやこひのさかむん

[illegible]

くくまくれゝとあくるのみきくる

里遠戀和備爾家里真十鏡面影不去夢所見社

さとをへだてわびにけるいへさとまそかがみおもかげさらずゆめにみえこそ

右一首上見柿本朝臣人麻呂之歌中也但以句句相換

故載於茲

劔刀身爾佩副流丈夫也戀云物乎忍金乎武

つるぎたちみにはきそふるますらをやこひといふものをしのびかねてん

[illegible]

劔刀諸刃之於荷去觸而所殺鴨將死戀管不有者

つるぎたちもろのうへゆきふれてあたもしらんこひてあらずは

くるをてあんずるはかれしなるんとてく所殺と[illegible]

[illegible]

唖鼻乎曾嘘鶴劔刀身副妹之思来下

うもそばきそをとそひつるつるぎたちみにそふいもがおもひくらも

唖字彙補木由切平声若唖漢賊名[illegible]

微笑一曰大笑[illegible]

唖ハ咽ト同[illegible]

ちのうへとよみしより、なぞらへべし、まちかひるハくはしくおもへるにそのあるるなにて、
つるぎたち枕詞

梓弓末之腹野爾鷹田為君之弓食之将絶跡念甕屋
あづさゆみすゑのはらぬにとがりするきみがゆづるのたえんとおもへや
梓ゆみ枕詞、大和添上郡陶（スヱ）の原跡なるべし、食ハゆづるとよみて弓弦とま
しの字ちハ弓葛の語のごとくゆづるなるべしといへりたえんとおもへやハたえん
やくよハゆづるといへる事にてゆづるハ絶めしいくん料のし

葛木之其津彦真弓荒木爾毛憑也君之吾之名告兼
かづらきのそつひこまゆみあらきにもたのめやきみがわがなのりけん
仁徳紀を考ふるに、葛城襲津彦ハ建内宿祢の子みこ勝れたる男子
まこハ弓力も勝れけん、されバ紀にハみえねど、此人の弓を盾（タテ）人宿祢の識の
的を射通せしこともありなるべし、されバ弓の名に負せしやなり、

荒木弓ハ荒木のかたいろなるを、新木の弓ハ引どよわきを、あるハより
強きんのをよろしきなる、末ハ女の思ひなりむ男子ハ名を告男も又ん
よせて妻とせんと男子女の名を我人も問ふべかれども男伝寄の
多名を人に告しハ男によるにより、告つんと女のたのめこへるにとなる
べし、又たのめのかいたのめやとせバ弓をらをとたのもしき拠とするにたる
なし、またるはハ三の句ならべしや

梓弓引見弛見不来者不来来者其其乎奈何不来者来者其乎
あつさゆみひきみゆるべみこずハこずこばそそをなどこずハこばそを
弛をゆるべと絶と書ハ誤なり、上二句ハ譬にて、来者其ハ来ハこぬべきことを
いふと思ひて、次の其乎ハそれとなぞへやと支にふを起して、故に二つの
其の句を潜く切て見べし、結句ハとのぬを再挙して、不来ハそれと

来ばそれをしいふて也。いかに不来ハ不来、来らば来るべきと何ぞぞ
弓を引つ弛つするごとく心定らぬよとなげくなる

時守之打鳴鼓數見者辰爾波成不相毛恠

ときもりのうちなすつゞみよみみればときにはなりぬあはなくもあやし

陰陽式諸時撃鼓ニ ことく時もハそれにあづかる人をいふ。うちなすハおと
なるをよみかぞふるなれバ、さく数かぞふる時に来ぬるとおもふ
逢ふべしとあやしきと、古き点よ此方の末をあくぬあやしもと有ハ
よくもあれど、末二名老をして不相毛恠としあり

燈之陰爾蚊蛾欲布虚蟬之妹蛾咲状思面影爾所見

ともしびのかげにかゞよふうつせみのいもがゑまひしおもかげにみゆ

よハ妹に逢まし時のさまをいふ。かゞよふハかゞやくと云つ、うつせミの
こハ現にありて我の身の妹といふ也。妹に離れ居て思ふ時の有

板ハ坂ノ誤

さまの面影に見ゆるといへるのみ

玉戈之道行疲伊奈武思侶敷而毛君乎将見因母鴨

たまぼこのみちゆきつかれいなむしろしきてもきみをみんよしもがも

むかこの稲筵ハ敷むしろハ宛旅寝まくらし上ハ寝てもさてもといふ序のみ。しきてもさて
ハまへしのごとく

小墾田之板田乃橋之壊者従桁将去莫恋吾妹

をはりだのさかたのはしのくづれなばけたよりゆかんなこひそわぎも

をはり田ハ推古天皇十一年十月豊浦宮より小墾田宮へ遷ませるよ
紀に見ゆ、神名帳大和高市郡治田神社とある。板ハ坂の誤なるべし。さてここ
にいへるハ小墾田の金剛寺を坂田尼寺といふ。推古天皇の鞍作鳥に近江坂田
郡水田を賜へる時、鳥天皇の御為に此寺を建られ。坂田寺といふなるべし
南淵山細川山より水落合ひて、坂田寺の前を流るといへバ、そこに渡せる

板とよめるならんよし契沖いへり、斯明元年二年十月二、死せる家なるゆゑ遂
まぜしよるを小はた田ハあれてと来て、そこの板の板なる板のあちらくし、
くるを後世誤りてくをはなしのいたことよみくるなり

宮材引泉之追馬喚犬二立民乃息時無戀渡可聞

みやぎひくいづみのそまにたてるたみのやむときなくこひわたるかも

山城相楽郡泉へ、よする杣木樸泉河よりひく泉のそまより良材を
多く出せるなり當るれば、此対をいへる序とせり、追馬喚犬ハ、つとよする
喚欵とよする訓なく、今うまのを追ふ声と詞なく、呼ぶるを追ふそといひ、犬を
呼ぶまといへるなるべし、まそ鏡ふ大いる鏡とするハ、誤とえ思ゆるへく

住吉乃津守網引之浮笑緒乃得干蚊将去戀管不有者

すみのえのつもりあびきのうけのをのうかれかゆかんこひつゝあらずハ

はなの海のあびまそ、和名抄浮子 宇介 といへるかのをゝけハ繩をはるせ

んあるれバうけのごとよう、ありてあんよりハいづちへてうかれゆかんやせんとなん

東細布従空延越遠見社目言踈良米絶跡間也

よこぐものそらゆひきこしとほみこそめごとかるらめたゆとへだつや

東の横雲ハ、あの横布と川なく、見ゆるとよてうくもり、一二の句ハ遠きを
望むおくのし、目言ハ、まりの目の枕詞とほぼ詞のさのごとく、見るを言ふく、
遠なればなかなかにもあいふまこそうとこのくも絶ゆるなゆハ今ハ絶なんと
そてつるなんと絶也く

云云物者不念斐太人乃打墨縄之直一道二

かにかくにものハおもはずひだびとのうつすみなはのたゞひとみちに

かくの文の趣、るしハ如是くも也といへれバ、うるを訓べし、右の道ハ飛騨の国このたを
て、さへ来るを任へしめらく、ひさたくみとも、ひだくたくみ和名抄 縄墨内典
云端直不曲喩如繩墨 和名 須美奈波 あるく、一うちハやがて一すぢといへり

足日木之山田守翁置蚊火之下粉枯耳余戀居久

あしびきのやまだもるをぢがおくかびのしたこがれのみわがこひをらく

をぢは紀に鹽土老翁とかきて老人と見ゆ。巻十六佐夜麻田乃乎治などよめり。かびは二つの説あり。一つには猪鹿を追ふべき爲に

火ほぐしを焼くなるをいふ。一つには蚊遣火とも云へれ

ば猪やてらすべし。猪をば火にて見するに、よく蚊をぞ焼て和ふまれば下こ

がるゝをいはん序とせり

十寸板持蓋流板目乃不令相者如何為跡可吾宿始兼

まきいたもてふけるいためのあはざらばいかにせんとかわがねそめけん

十寸とかけるは、眞そ十寸は一尺なるを、眞そといへば、まきといへる板とも

訓べし。板めのあはで、いかにせんの意にして、不令合は不合を令ㇾ合の意

といふ歌也

難波人葦火燎屋之酢四手雖有己妻許増常目頬次吉

なにはびとあしびたくやのすしてあれどおのがつまこそとこめづらしき

煤びてあれどを錯て、すゝけれど云ふ。葦火たき燎ハ小屋ハとも、煤けたく古

びたるを以て女の古びたるに譬へて、されどしおのが妻こそ常めづらしと云々

妹之髮上小竹葉野之放駒蕩去家良思不合思者

いもがかみあげたかはのゝはなれごまあらびにけらしあはなくおもへば

いもがかみあげさゝばとつゞけたり。あげまきは髪をいづれの方にも束ねあげて、後れ髪の、あびきさせ

たかはのゝはなれごま、あらびぬるは、みだれてあがりしはなくく、よう

よはあらびといふ序なり。人の心の離かれ行を馬のあらび行に譬へたり

馬音之跡杼登毛為者松陰爾出曽見鶴若君香跡

うまのおとのとゞともすれば、まつかげにいでてぞみつる、もしきみかと

とゞは轟く音也。まつのかげの松を待に兼て、君を待て、出見るを云々

[illegible]

君戀寢不宿朝明誰乘流馬足音吾聞為

きみをこひいねぬあさけをたれのりてうまのあしおとわれにきくらん

他一人のまれるをうらやみてよめる

紅之襴引道平中置而妾哉將通公哉將來座

くれなゐのらんひきてなかちをおきてこれやかよひんきみかきたらん

[illegible]

[illegible]

新[illegible]

一云須[illegible]衡河平又曰待香將待一云八二の句又曰八結句の異文

天飛也輕乃社之齋槻幾世及將有隱嬬其毛

あまとぶやかるのやしろのいつきつくあしんてゆをつまてしも

天[illegible]や輕の社、神名帳大和高市郡輕樹村坐神社[illegible]

紐ヲ級ニ誤

概を祈なしいくしけるとしに千年を祭るとも[illegible]

べきかの紐遠きをとりて

神名火爾紐呂寸立而雖忌人心者聞守不敢物

かみなびにひもろぎたてていをいとひひとのこころはまもりあへぬもの

[illegible]

堅城神籬神籬此云比莽呂岐、和名抄、日本紀私記云神籬俗云比保路岐[illegible]檜宮籬

[illegible]て、[illegible]庭中のあもとの神の小柴[illegible]の柴かけ[illegible]の神宮

の籬と他をいつ、[illegible]社の[illegible]文[illegible]を崇[illegible]はよ[illegible]

て、[illegible]の社[illegible]あれど、神[illegible]と[illegible]

ふとハ即[illegible]をいつ[illegible]人のかり[illegible]を[illegible]神といのれ[illegible]

[illegible]

天雲之八重雲隱鳴神之音爾耳八方聞度南

あまぐものやへぐもがくれなるかみのおとのみにやもきゝわたりなん

とはあまくもいくへ雲のしたに、さしてすはやまおろしのかみなる神の音を
よそにてきくことのみといふは、せちなるこのまをせるらん

勇者神毛悪為縦咲八師世副流君之悪有莫君爾

あらぶるかみもにくますよしゑやしよそふるきみがにくからなくに

ふくまれはうらみまをと得るべきを人のうらくいつるとさることく
なしと身ふべかれど、何はにくからぬ君なれは、ちひく身りて神のまくを
とゆんにおもへばあらそひはなしといふ

夜並而君乎来座跡千石破神社乎不祈日者無

よなよなにきみをきませとちはやぶるかみのやしろをのまぬひはなし

夜なよなとは日並てといふ日がのなとは、いのるなり

霊治波布神毛吾者打棄乞四恵也壽之恡無

たまぢはふかみもわれをばうつてこそしゑやいのちのをしけくもなし

たまぢはふ枕詞神の得たまはく新なへの事を幸をなしたまはれは命の
幸をなしあつるとかかりてハ命幸くあれと祈し神をもなにかは齋於
たよりてよと色をまして、あまた僕て身を捨るといつてハいのちての給

こゝハよしゑやしゑやハ歎く詞

吾妹兒又毛相等手羽八振神社乎不禱日者無

わぎもこにまたもあはんとちはやぶるかみのやしろをのまぬひはなし

左の夜並而の歌の或本なるべし

千葉破神之伊垣毛可越今者吾名之惜無

ちはやぶるかみのいがきもこえぬべしいまはわがなのをしけくもなし

和名抄日本紀私記云、瑞籬 俗云美豆加岐、一云以賀岐、人の越て穢さざるを忌神垣の義也
いみがきといふと思へるなり、この歌は神のいがきをさへこえなん、おもふ事

逐てんそれは俗く名のえんにかく意はりて心惜うしぶというく、まさ七
ゆうそていむけそうし知めぐくらかゆるうを意のしげきみそうよりう

暮月夜曉闇夜乃朝影爾吾身者成奴汝乎念金丹

上ハ夕月の比ハ曉やうるるとあやまつるのくさく晩名こいでくるま
序くれしいねふハせしそそそんでハ雖て念塔雖うてと思
くるそのえ空もち丹のさハ術文まくくなとねいれちぐかねまこいて
ま例ちよいて

月之有者明覽別裳不知而寐吾来乎人見無鴨

つきあれハあくらんわきもこてねくわがくしとひとみくんこのも
ちくそ系ゐまくしげあけハまちの見えるぐみねまくくらとくくんもと
りよハ今のくらん

妹目之見巻欲家口々闇之木葉隠有月待如

すもあのみまくほしくくゆまやみのあえこそれるつきまつごのごと
ゆとうえまくりさハ久しまのもどつうらきて、ホの名ようきうる月とゆ
ごくとん

真袖持床打拂君待跡居之間爾月傾

まそでそそそとこちはらしきみまつとそりあひぐるつきかくぐきぬ

二上爾隠経月之雖惜妹之田本乎加流類比来

ふたがみにかくるつきのをしけども いもがたもとをかるるこのごろ

大和為下形葛城山のそそに尖りうる成二つて、えを二上ふたつぐそ
は国の西ゐれハそそる成うる月の白ーるきが隠るるの惜きとへく
ゆうと上ゆうる月のかくしらつべきとうるるかるハ新るるく

吾背子之振放見乍将嘆清月夜爾雲莫田名引

わがせこがゆきけみつ・なげくらんきよのよつくよのくもなくこちのびさ

や・柳引ことなれらのうらうらくだるの潮と男子の恋者のこと

真玄鏡清月夜之湯徙去者念者不止戀社益

まそかがみきよきつくよのゆつちなびかひやまずこひこそまさらん

ゆつるへうつる人者月夫由後去ともうつる人の名ハの月のうるぶのうき

よ・ゆまさらんこそ

今夜之在開月夜在乍文公乎置者待人無

このよるのあけあけづくよあつてもきみをおきてハまつひとなし

と・あつてとつくん序のこ・ちるぶくんてこ・ゆをおきてゆよ名きてぶくんハ

なしこく

此山之嶺霧近跡吾見鶴月之空有戀毛為鴨

このやまのみねまちうとわがみつるつきのそらなるこひもするかも

峯ゆ月のかくれくまでよそ和ちるを山でかくるくん序ちち

烏玉之夜渡月之湯移去者更哉妹爾五吾戀將居

ぬばたまのよわたるつきのゆつるみぶやさらにやいもにわがこひをらん

たの夜ゆ後ちくの名ゆ月のこと

朽綱山夕居雲薄往者余者將戀名公之目乎欲

くちなわやまゆふくもの・うすらぐれハこひんなきみがめをほす

豊後紀来田見邑ゆ豊後風土記大分川此川之源出直入郡朽綱之

峯指東下流ゆ

薄と轉くものれ・れ・ハ轉徙とかり・ゆ名きくぶ・ゆ

ゆらといつるハ夜の風くのゆゆちるぶ・ゆ星ゆハ風くのゆ・ハ名ゆ

君之服二笠之山雨居雲乃立者繼流戀為鴨

きみがきるみかさのやまよみるくものたちてハつぐるこひもするかも

在六成ノ誤

久方便ニ字脱

ちつるる樹、ちの之のられば、み雖く風て、山雲よりの絶る時きをを、
をひとせばやをてみのをてするるたよ者之るちるのみ雲のひる名名の
やがつるて雲まるるしるて思ぐをく

久堅之天飛雲雨在而然君相見落日莫死

ひさかたのあまとぶくもにたなびてーおきみとあひらんなつるひるすま

在一本成ーをそよきおつるはちをを巻中男ーいちを、又一巻ーいちを

ををつ一本ーを者中をみをらをきをもかれを為て雲をををいあをて

ををを

佐保乃内従下風之吹禮波還者為便胡粉歎夜衣大寸

さをのうちゆあらしのふれば之さるかへりをんををををををををををを

佐保山の西の胡粉のごとく雪便のふるををを胡粉をををふををを

のををの為のをををををををををををををををををををををををををを

百鮮十一下　十六

也注まをををを、牧者べを、大伴をを多く

級子八師不吹風故玉匣開而左宿之吾其悔寸

はきやーをのあかせゆをたまくげしらきてをれをーををををを

子八寺の住く、法師院をいををををををををををををををををを

ををれば之を風をををををををををををををををををををををを

戸をつをきて風をををををををををををををををををををををを

ーくをめをを歌をく、二の句ふををを風ををををををををををを

窓超雨月臨照而足檜乃下風吹夜者公乎之其念

まどををーふつきあをてををてあをををををををををををををを

をーををて八ををを、ををををををををををををををををををを

月押照れををををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををををををを

誤ヲ通ニ

河千鳥住澤上爾立霧之市白無名相言始而者

かはちどりすむさはのくまたつきあのいちじろくあらいそなれそ

霧ハ集中白氣ニシテ多ク紅ナルヲ白クシテ多ク立ルヲ霧ト云ヒ

いつかもの如を源氏ニ云ヒ

ちんとそひ強く女のあるべし

吾背子之使乎待跡笠毛不著出乍其見之雨落久爾

わがせこがつかひをまつとかさもきずでつつみしあめのふりくふ

此歌ハ二ノ巻載ル所ニ同ジ

辛衣君爾内著欲見戀其晩師之雨零日乎

からころもきみにうちきせみまくほりしけしらしあめのふるひを

此ノ歌ハ前ニ出タリ

彼方之赤土少屋爾霧霖零床共所沾於身副我妹

をちかたのあかつちをやにきりしぐれとこともぬれてみをそへわがいも

新撰紅葉集ニ烏智可拔能阿婆努能枳ノ始、大後河ヲ彼方ノ繁木我本

とあり、彼方ハ彼方ニアルヲ云ヒ、遠近ニ云ハズ、遠ノ彼ニ

ハ、たとへ遠くとも遠ノ彼ニ

ちかたの人の

霧ハ集中ニ

霧ハ集中ニ

笠無登人爾者言乎雨作見留之君我容儀志所念

かさねてとひふはいひてあまでみまくほしきみがすがたしおもほゆ

身ぬりんるを殿くてしし濡るとるとおもふらんそのをとがくさく

とよめるなり

妹門去過不勝都久方乃雨毛零奴可其乎因将為

いもがかどゆきすぎかねつひさかたのあめもふらぬかそをよしにせん

身ふれてぞ、それをとよりわたしてこよみたるなり、給ふ姫のかどを、ねつひぢ

かさの身ふらるんあをかくれせんといつふ、ひぢきは久のことを語りたる、

さいばらふに、源氏物語みてひぢ笠らするあるは、語り伝へたるとのたまへ

夜占問吾袖爾置白露乎於公令視跡取者消管

ゆふけとふわがそでにおくしらつゆをきみにみせんととればけにつゝ

夕占とかくと道ゆきのあしたる絹を家のおもとなり

櫻麻乃苧原之下草露有者令明而射去母者雖知

さくらをのをふのしたくさつゆあればあかしていゆけはゝはしるとも

さくらをの桃組麻麻綿とかしにて麻のまるるものいへ下草はこそ麻

のほまの生る草くあすぐさとのへ料のしと咲きあかるまではありければ、そを

明してゆけといふなり、いはよ語、櫻麻は先人が考へたるよみ人つくりいひたるを

待不得而内者不入白細布之吾袖爾露者置奴鞆

まちかねてうちへはいらじしろたへのわがころもでにつゆはおきぬとも

巻十二にも、庭にあとくられば、おるひきおろし髪なみをあるべくもとりつくろ

ふるれども立ちはあかなかちくも、あなかさずは重くもつくしと失ぬべきを

秋はあしすとなつるは、太の二ぞとらず、まじくとせるやらん

朝露之消安吾身雖老又若反君乎思将待

あさつゆのけやすきわがみおいぬともまたわかがへりきみをしまたん

巻十二に、袖白露霜乃とかれるのしましく、なしくなりもせり

白細布乃吾袖雨露者置妹者不相猶須四手

[illegible]

[illegible]

[illegible]

云云物者不念朝露之吾身一者君之隨意

[illegible]

夕凝霜置来朝戸出雨甚踐而人爾所知名

[illegible]

[illegible]

如是詩戀作不有者朝雨日爾妹之將履地消有巾尾

[illegible]

足日木之山鳥尾乃一峯越一目見之兒爾應戀思香

[illegible]

吾妹子爾相縁乎無駿河有不盡乃高嶺之燒管香將有

[illegible]

[illegible]

荒熊之住云山之師齒迫山責而雖問汝名者不告

あらくまの[illegible]やまの[illegible]せめてとはなのなへのら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

妹之名毛吾名毛立者惜社布仕能高嶺之燒作渡

[illegible]

或歌曰君名毛妾名毛立者惜已曾不盡乃島山之燒作

毛居　或の下本の句を後ろ[illegible]

往而見而来戀敷朝香方山越置代宿不勝鴨

ゆきてみてこれば[illegible]

[illegible]

記、其稲田毗古神坐阿邪訶、神名帳伊勢國壹志郡阿射加神社[illegible]

[illegible]

安太人乃八名打度瀬速意者雖念直不相鴨

あだびとのやなうちわたせはやみとろはねどたゞふあるぬる

和名抄大和宇智郡阿陀、陀音可　[illegible]

野河之河原時、作釜有取奥人、[illegible]、名謂贄持之子、[illegible]者阿陀之鵜養之祖也、[illegible]

和名抄奥梁　夜奈雑　漢語抄云夜奈須　取奥　[illegible]也、同云、釜　[illegible]　捕奥竹筍也筍取奥竹

器也、[illegible]

[illegible]

[illegible]

よかるべし、上ハまきといふ序にて、ろくろくハたぎつてゞ云ひたくとも
のゆゑなり

玉蜻石垣淵之隱庭伏以死汝名羽不謂

かぎろひのいとかぎろひのもちのかくれはふしてしぬともなごりなハのらで

かぎろひの枕詞、前にもかぎろひの立のゝ立ちくゆる煙とよめり、
こゝにてあれバ隱れとよめり、以ハ報の假字なり、この又伏以死の以ハ既所みて、
ての詞にあてゝ、こゝ共ハ庭伏以ハ假字なるべしといふ、精考べし

明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨

あすかゝハあすとわたらんいそゝのとほきこゝろハおもハえぬかも

二の句ハくゆるべしいそゝハ枕詞、其ハ石走のるをさきとよむ、
とバこゝハ遠くとハなり、こゝ、るをくゆるもしておろそかといへる

飛鳥川水往增彌日異戀乃增者在勝申目

あすかゝハみづゆきまさりいやひろるこひのまさるこゝろハありかてまし
上ハ增とつゞく序のいとひろるハ広なり、ありかてましハ去なるこゝろなり
とくもハ誤

真鷹刈大野川原之水隱戀來之妹之紐解吾者

またかりおほぬがハらのみこりふこひきたりいもがくるれそ

大野川原ハ伊勢の国にあり、紐解ハ共寢の枕詞、
俗にあれど、大を河とよまバ野と言りてよみがたし、上ハ序にて、みこりふ
ハ下に立るといふ

惡氷木之山下動逝水之時友無雲戀度鴨

あしびきのやまたとよみゆくみづのときともなくこひわたるかも

上ハ序にて、意こひわたるとよむ

愛八師不相君故徒爾此川瀨爾玉裳沾津

はしきやしあはぬきみゆゑいたづらにこのかはのせにたまもぬらしつ

上ノ二の句不相子故ニ作、白當假ぬらしつとかいはるまでなく今白々を

越ゆるハ男の方よりくゝハ女の方へ川瀬を渡りて通ひ来し様にて男

の方とせるまゝに佑べし

泊瀬川速見早湍乎結上而不飽八妹登問師公羽裳

はつせがははやみはやせをむすびあげてあかずやいもといひしきみはも

早ミ早セハ、水を手まくすくひあげといふ、泉をも山を掬びて、呑ニ飽

かずと問ひしてお別れれどあかずや妹やと問ひし男のうへを思ひて

問ヲ問ニ誤

後文ヲ按ずるに

青山之石垣沼間乃水隠尓戀哉度相縁乎無

あをやまのいはかきぬまのみごもりにこひやわたらむあふよしをなみ

青山ハ木立茂き山をいふ、よりて石垣沼の水かくれにこもりてあるよしを言へる谷

ちゝのるがきゝとゝめまくほしくハ、上ハ序にて

四長鳥居名山響爾行水乃名耳所縁之内妻波母

しながどりゐなやまとよにゆくみづのなにのみよせしこもりづまはも

しながどり枕詞、みなせハ序なり、上ハ序にて、きこゆる名のみよせしといふ事を思へ

きこえたるのみよせしハよるる里人のこととなりつまのみしたしくもてはやされ

せられし人ハ隠すよしまくあるハ、この母の言ひ命の眉がたりといひつる

ぬるハ父母の守りて来て、妻となるべき妹をいふ、さらくもは妹の行くへを知らねバ

又ハ妻なしといふ、さくなるべし、響雨の雨ハ借の字ふとよみとなるべきなん

一云名耳之所縁而戀管哉将在

吾妹子吾戀樂者水有者之賀良三超而應逝衣思

わぎもこにわがこふらくハみづならバしがらみこえてゆくべくぞおもふ

巻十四にもぎて子ら床の・めぐりはよくくるれまむつるりてねかうとし

瀬ヲ須
二誤

[illegible]

或本歌句云相不思人乎念久　これはあるべしとて、言葉
失て別条なしなり人

狗上之鳥籠山雨有不知也河不知二五寸許瀬余名告奈
いぬがみのとこのやまなるいさやがはいさとをきこせわがなのらさまし
和名抄近江大上郡老ノ上あつみ山のとこの山なるいさやがはとあり、知
をいさとは人のこの事、知らざるをいさと云ふと思へり、
いさとのいひく、不知なるべしとあれど、いふ知らいん
事のく、さていさとはいさやとは、知らのこまそやとはいふ、二五は十
ら、ばく、まことのとばゆ、祥人、瀬とは須なり、一寸は伝を改、三は
いさ不知といひく、其名をきかせよ、名告とは名をいふ、古人名を告はいまだ
名をいふことなりとて、上に同じ

万解十一下　廿三

奥山之木葉隱而行水乃音聞後常不形忘
おくやまのこのはがくりてゆく水のおとまきてしゆつねわすれず
上句は序なり、下の句は解なし
言急者中波余騰益水無河絶跡云事乎有超名湯目
こゝくはかなるのはよどもませみなせがはたゆとまきてとあるゆゑ
宮もこゝきは人言のけるこゝきとうとのこゝは人言をぶこゝく、
中ぐろはよみくるしいまるき、されどつひに後のはきれとくいて
四下ふうぐれておいもゝ水をれ、岩にぶつかるを人はたるる水流
こゝくは波のなるゝ、岩にぶつかるこゝはこゝ
のまれ、みなもの川をは波下のあるくこゝ、みなもの川はのの
ゝとぐれば或は流、或は流ゝ所ゝ後ゝ流ゝ下ゆれ
ゝいひて、其の望ゝとれば、越はゆくをとわ、よ通

明日香河逝湍乎早見将速登待良武妹乎此日晩津

あすかがはゆくせをはやみたちやらんとまつらんいもとこのひとつ

速の下見の字を仮せり、こゝ序のこゝ、侘るとくゝとく仮りて、さねと

くゝせり

物部乃八十氏川之急瀬立不得戀毛吾為鴨

ものべのやそうぢがはのはやきせをたちえぬこひもわれにもるかも

ものゝ敷と詠て、ものゝ若きと詠て、ものゝたちて下のきとこ

ろゝる敷、集中にゝゝ

一云立而毛君者忘金津藻

神名火打廻前乃石淵隱而耳八吾戀居

かみなびのうちわのくまのいはぶちのこもりてのみやわがこひをらん

若は衣もとお廻里と云ふと、むとゝ云ふと、花多門の仮名れ

神名備山の葉と打廻と云ふと、若三字神名備の淵ともゝのめ

出ぶ石間に即そこもるべしとれば、こもるとお廻の前と云ふて弱ハい

られず、宣考に、お八折の送まくを、何くに、なのれまぐれる

をゝ云ふて、若は立委し、この句まぐれ、こもりてし、こん序のゝ

自高山出来水石觸破衣念妹不相夕者

たかのやまゆいでくるみづのいはぶつかわれてぞ思ふ、ゆえにあるよは

ゝ山出ゝ出ゝまゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

もゝ序のゝゝれて、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

朝東風雨井提越浪之世蝶似裳不相鬼故瀧毛響動二

あさごちてゐでつゝみこしなみのよのちょにもあはぬものかたきもとゝろ

和ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

ものせんゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

世間のことをしらぬ人は世のうとく無才なる人は不知不覚に
氏不しらるゝ事なれば蝶は無語にして誠に越の国の俗語にて世ごと
しるものやうなれども物いふ人もまれなるべし又蝶は蝶の俗語にて
垣越語と名づけたるなるべし
うゝぶとよる蛙越が物語と
物語を外目にみるうゝ
はなの陰にかくれて
なぬこゆるとよくと言葉にて
言葉人言の意きを名づけたる
高山之石本瀧千断水之音雨者不立戀而雖死
たのやまの石もとたきちゆくみづのおとにたてゝこひてしぬとも
たきもの石はまとをなくたきもの音にたゝぬこひしぬとも

万葉十一下　廿九

傾ヲ補ニ今ヲ合ニ俱

隱沼乃下雨戀者飽不足人雨語都可忌物乎
こもりぬの下にこひるはあきたらずひとにかたるつゆはいとゞきものを
こもりぬの極沼は十二合の俗字なれども
りのとゝまるはしるべきなるべし
水鳥乃鴨之住池之下樋無辭恒君今日見鶴鴨
みづとりのかものすむいけのしたひなくこひるこゝろはきみをけふみつる
下樋なき池は水の流れ出るなるべきよりそこいとせきとゝめて
宮ものゝ本樋と傾ヲ今と合られて
玉藻刈井提乃四賀良美薄可毛戀乃余杼女留吾情可聞
たまもかるゐでの志がらみすゝきのもこひのよどめるわがこゝろかも
むもうる樋ゐでは堰にて
玉藻の刈井出の堰をまくつゝ水をせけばとゞまるまくをしき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今昔脱

いうなんたるねぐらもこづゑなくなりてゆく

白細砂三津之黄土色出而不云耳衣我戀樂者

きらきらなるこみつのきみのいろるでいはざるのみぞ　わがらつらくも

きらまるごとくハ一二の句のるゝ輝らるれば古ゝるゝ　砂ハ砂ゝ布のるゝの

語ゝくきらるいろるぐゝ　ゝハ真つハつちの字ゝく白栲の真土といひ

かゝるる栲ゝせんゝ　ゝ毛白栲ゝ　ゝ伝ゝ伝ゝの山門ゝゝ　ゝ

きゝれゝ花ゝ　ゝ　ゝ　

霰零・遠津大浦爾・縁浪・縦毛依十方・憎不有君

あられふる・とつおやうらにより・をるなみのしらたまもみくかるなり

あられふる・松原・寄七夕・物くさ・遠ほの浦・とよあるる・同じく・遠ほ・大浦も

伝伊の・上ハ・ふるく・よりまさしハ・よそもよそる・君ぶみ・くく

なくみしよりあるひくく・よりくしハ・ものハ

物語

木海之・名高之浦爾・依浪・音高鳥・不相子故爾

きのうみの・なこのうらに・よるなみの・おとたかきとり・あはぬこゆゑに

名こるのうら・世をも・寄十二・ものよりハ・上ハ・ふるく・名こるとうの・ふる

よせなり・ものこそ・いひさわ・ぐとも・あハぬるゆゑに・あハぬるなる

このものこそ

牛窓之・浪乃塩左猪・島響所依之君爾・不相鴨将有

百解十一下　五十八

うしまどのなみの・しほさゐ・しまとよ・よりしきみ・あはぬかもあらん

牛窓・備前・海・きこの・浦の・ふる・人・こと・ぶ・ものこそ・ふれ・しきみ・ものこそ

奥波・邉浪之・来縁・左太能浦之・此左太・過而・後・将・恋・可・聞

おきつなみ・へなみ・のきよる・さたの・うらの・ゆく・さたの・ちくしんの・し

寄十二・拾・ものこそ・ものこそ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

たちハとの・人・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

と・いふ・ハ・ひ・ものこそ・ふる・人・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

とよ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ・ものこそ・ふれ

白浪之来縁島乃荒磯雨毛有申物尾戀乍不有者

塩満者水沫雨浮細砂裳吾者主鹿戀者不死而

任吉之城師乃浦箕雨布浪之数妹乎見因欲得

風緒痛甚振浪能間無吾念君者相念濫香

大伴之三津乃白浪間無我戀良苦辛人之不知久

大舩乃絶多経海雨重石下何如為鴨吾戀將止

水沙兒居奥荒磯雨縁浪往方毛不知吾戀久波

みさごゐる おきつありそに ふるなみの ゆくへも きしに わがこそ ゐなく

和名抄 鵰鶚 美佐古 鵰屬也、好在江邊山中、亦食魚者也、とぞ、よゆくへきしぞ

といふ歌のこと

大船之 舳毛艫毛 依浪 依友吾者 君之任意

おりゐるなみの へもとも とも われは きみこそ まかせ

こゝろことなる ひとをぞ ねらふ

世とは、てゝ、さて、人にこそ、よりて、あるこゝろ、ぞ、たゞ、ものまかせ、といふ

大海二 立良武浪者 間將有 公二戀等九 止時毛梨

おほうみに たつらむなみは あひだあり きみに こふらく やむときもなし

こゝろ、こゝろ、ものを、

牡鹿海部乃 火氣燒立而 燎鹽乃 辛戀毛 吾為鴨

をしかの あまの けぶり たきて やくしほの からこひも われは するかも

万解十一下 三十

故ヲ牧ニ誤

たゞのあまよりも、ものをもて、やくしほのこゝろ、いへる、

これとかはる、

右十首或云石川君子朝臣作之 此巻もくく紀氏にて、これ、

中中二 君二不戀者 枚浦乃 白水郎有申尾 玉藻刈管

なかなかに きみに こひずは あらまほし ものを、たまもかりつゝ

らひぞ、、、、、あんよりのこと、例、、、、、おくれ、、、わづらひ、せざるは、み

その、、、、、

珠藻刈（カルカル）　後後のあみの浦を奥津島にて
メメ

鈴寸取海部之燭火外谷不見人故戀比日

もすぐきとるあまのともしびよそにふるこのごろ

古事記に蒲鉾海人之口大之尾翼鱸（ソリスルアヒノクチオホノヲヒロスキ　別鱸云頃受岐）とあり、あまゆゑ、とあるのこと、上に序のこと

湊入之葦別小舟障多見吾念公爾不相須者鴨

みなといりのあしわけをぶねさはりおほみわがおもきみにあはずあるらも

陸奥の国八郡の内の葦とあり、陸奥は今は十二郡なり

同きたのうみゆ

庭浄奥方榜出海舟乃執梶間無息為鴨

ふはきよみおきべこぎでるあまぶねのかぢとるまなくきこひすらるかも

あの浦はのこめときはしいでゝ出るとうたへり、又浦ハ

静の字ちがひ、水門とよみたるもこの

味鎌之鹽津守射而水手船之名者謂手師乎不相將有八方

あぢかまの塩つもりてみなのわてをあらめやも

あぢかまハ遠江国敷智郡にあり、饗宴寒川郡庵佐の浦、鎌の浦とつゞけ書とも国人いう、塩はいを江にもかぢ多くこゝ

よみてるハいづこの舟ぞ多くこゝ

やすれ船と枯野とあり、枯野ハ伊豆国にいづれも造る

さんるの字ハ女のわとよまるゝ人よりこゝろ

大舟爾葦荷刈積四美見似裳妹心爾乘来鴨

おほぶねにあしにかりつみ三みもにもぞこゝろにのりこのも

ハ繁くとあり、繁ハよろづにこんもりとしてこゝ、葦刈つみこゝ

[illegible]

驛路爾引舟渡直乘爾妹情爾乘来鴨

[illegible]

[illegible]紀の川へ底牧令ヲ永驛不配馬量閑繁驛別置船四隻以下二隻以上ヲ以テ引舟ハ[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]

吾妹子不相久馬下乃阿倍橘乃蘿生左右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

味乃住渚沙乃入江之荒磯松我手待兒等波但一耳

あぢのすむ[illegible]

[illegible]

名の地名ハ上ハ待[illegible]

吾妹兒乎聞都賀野邊能麻合歡木吾者隱不得間無念者

わぎもこをきつがのべのまなるひねむ[illegible]

神功紀仁德紀ニ蒐餓野トアリ[illegible]

[illegible]

浪間從所見小島之濱久木久成奴君爾不相四手

なのみまとう・みゆるこずまの・さまびき・ひさ〜くなるめぎみよあぞ〜て

小為ハ倫寿紀伊ナあれど、そハ老七ヨ、玉の甫の枝れ小為ゑどいつる新さて、

ぢえこハあ〜ぶ〜ぶ〜ぶ〜ひさまハ和名抄揪比佐木 ゑゑて赤めの〜ハ〜いゑそのく

〜ハ〜ゑ、されどそれハ相梓ゑその新まく、海風よ悪く、為ゑどゑさてくさあゑぬ

知く同じ名まく度久ま八美ま弟ゑ度よ度びさ〜〜ゑさ〜ゑ語く、とハ久〜〜く〜

いゑん序の〜

朝柏・関八河邊之小竹之眼笑思而宿者・夢所見来

あきがしぶうゑかゑべのもあのめぢ・ゑめびてぬれバいゑゑみえけを

あきぐ〜ハ柏、朝明のゑゑもくあきゑ〜例べ、此柏詞のゑ、宿婦者ゑいゑれ

てれど度ゑ為の者ゑ巻ゑるゑみゑのあ〜がゑは〜あれど者とあゑ巻

はハゑねかゑ〜ゑゑハ秋ゑ巻く〜ハ〜の為ゑゑとあゑ〜がハ〜ゑべ〜、れば

ゑゑ赤き撰うゑゑ〜ゑゑ〜ゑゑ〜

つきくるものかうちまるひとといふ志かてのものもあんとよ
月くるの秋は人こゝろとうくゝ多命はかりまるといつまでもつゝらまち
てゝ侯よとまるべきとうてゝ
王之御笠爾縫有在間菅有菅雑看事無吾妹
おうきみのみのさふぬへるあきまけあかつてみれどこるきわざも
大嘗會式云、車持朝臣一人執菅蓋云云仲哀紀云皇后伝御
望のるるて菅と云、主るハ橋津くとハ主つゝいさん帝つくゝ主ハ
多さ人れどよろゝ弱るるといつる
菅根之懃妹爾戀西益ト思而心不所念息
すゝのねのねもこゝろいかふらてせまゝうゝかこゝろおもわゝあこのし
すゝのねの根は、思而心の二字かゝ何んやゝう、而心二字ハ慮の一字の仮
おもるるゝ、考ハ而ハ布の仮字ハ古と仮字ハ仮字と考そうら

かゝこゝろとるゝ紀ゝ、トハ仮字ゝ重ゝ下くきて、のそハんの
うちつのゝハこゝろびあつゝ、そよりハ離れて、おそこゝろ忘せるんと忘
ひ味ゝ、ゝ、ゝ、

あびきのやまさはをくとつなよゆのんひだすもあんさ〻ハさもしとし
をぐ〻ハをくさ〻ゆ〻いなあ〻ゆ〻ものんさ〻そ〻者のおれよ者ー、知人のゆ
をつゆ〻ゆく、をゆ氷知めゆれ、をぐつをんさてゆ〻あゆ〻ゆるゆゆ
ゆゆよ知ゆくんと男よ契ゆゆゆれくのゆん

奥山之石本菅乃根深毛所思鴨吾念妻者

おくやまの、いしもとすけのねふかくもおもはゆるかもわがおもひづまを

まのはもひづそ〻いまハまぐむうひ〻ゆ〻ゆほの〻ゆ〻ゆれハ者ゆ

者と知ゆ〻ゆ者ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ根ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ者ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

蘆垣之中之似兒草爾故余漢我共咲為而人爾所知名

あしがきのなかのにこくさまことよのひとにしられとをまてひとふまらゆる

者ゆ〻ゆ者ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ和名抄ゆ蘼蕪恵美

久佐といふゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

せらの備古弥巻曽ゝ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

れど者ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

紅之淺葉乃野良爾苅草乃束之間毛吾忘渚菜

くれなゐのあさはのらにかるかやのつかのあひだもわをわすなを

れなゐの枕詞、あさは和名抄武蔵入間郡麻羽、いま遠江佐野郡

郡も麻羽のたゝいづこもの、良賤の名ゐるれハわすれ〻ゆく

為妹壽遺在苅薦之念亂而應死物乎

いものためいのちのこせとかりごものおもひみだれてきぬべきものを

かりごもの枕詞、さい乱て死ぬべきものと、妹ゐるのゆゑ命のこせといふく

吾妹子爾戀乍不有者苅薦之思亂而可死鬼乎

わぎもこにこひつゝあらずハかりごものおもひみだれてきぬべきものを

三島江之入江之鷺平竹甫社吾平婆公者念有来
みしまのえのいりえのさぎ　たけのほこそなれをぢきみ　おもひてわれ
神名帳摂津島下郡三島鴨神社　さぎ　ちどり　三島江の入江とある
同じ　江ハかわ　いりえ　入江　おもひ　おもふ　をぢ　公
足引乃山橘之色出而吾戀南雄ハ目難為名
あしびきのやまたちばなのいろまでわがこひなんをやめがてにされ
山橘　実　義拙　ちり　ちる　ねし　ねる　なん　ハハ
人の子の袖ふくひるがへみもすそなびくなるべし　実也ハ難為名をいませ
ふくひるがへ　人目　ハは　ること　ふるよ　ハて
ハハ　ふくひるがへ　ハて　なん　ハハ　なるべし　おもひて
ものを
万解十一下　三十六

草多頭乃風入江乃白菅乃知為等乞痛鴨
あしたづのさわぐいりえのしらすげのしるしとなれとこたへかるかも
白菅ハ菅の一種なれとも　しるし　しるしとなれ　こたへ　かる
ちハ　まの　ちどり　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく
なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく
の　の　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく
よむ　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく
入江の　ちどり　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく　なく
吾背子爾吾戀良久者夏草之苅除十方生及如
わがせこにわがこひらくハなつくさのかりはらへとも　おひしくごとく
巻十三　二二の　なつくさの　なつくさ　おひしくごとく　同ドあり
道遠乃五柴原能何時毛何時毛人之将緩言乎思将待

みちのべのいちしばたちのいつもいつもひとのゆるさんことをたのみてまくこと

用明紀赤檮此云伊知比 ちなり、擂の熟わく、俗よいちがしといひて、大豆・麦・粟・稗・

稗・稷・豆・麻・胡麻・瓜・茄・蕪・蔓菁・芋・蕎麦・蕪・蔓菁・芋・蕎麦・蕪・蔓菁・芋・蕎麦

[illegible]

神南備能淺小竹原乃美妄思公之聲之知家口

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山高谷邉蔓在玉葛絶時無見因毛欲得

やまたかみたにべにはえたまかづらたゆるときなくみるよしもがも

[illegible]

道邉草冬野丹履干吾立待跡妹告乞

[illegible]

疊薦隔編數通者道之柴草不生有申尾

[illegible]

薦とハ藁[illegible]

[illegible]

十二、あすのいでくるまでハ疊薦を編数重ねしなんと有

水底爾生玉藻之生不出縱比者如是而將通

みなそこにおふるたまものおひいでずよこのごろかくてかよはむ

[illegible]

[illegible]

海原之奥津縄乗打靡心裳四怨爾所念鴨

うなゝのおきつなはのうちなびきこゝろも志ぬよ花もほゆるかも

[illegible]

嶺之名高乃浦之靡藻之情者妹爾因西鬼乎

むゝきのなゝのうらのなびきものこゝろはいもによりてしをのたゝ

[illegible]

海底奥乎深目手生藻之最今社戀者為便無寸

わゝのそこおきをふかめておもふものかもいまこそこひはすべわすゝ

[illegible]

[illegible]

左寐蟹歯執共毛宿常奥藻之名延之君之言待吾乎

さゐのふたかにはしをもとこのおくもの名はえのきみのことまつとわれを

[illegible]

[illegible]

吾妹子之奈何跡裳吾不思者含花之穂應咲

わぎもこのいかゝとゝもおもはゞはなのほゝさきぬべし

[illegible]

隱庭戀而死鞠三苑原之雞冠草花乃色二出目八方

きぬしかいこいてきあるくいとのみかゝあゐのたなのいろはいでゝやも

雞冠草とゝゐハ古語よりとゝつきくさとよまれつれとゝ宮ちゝ考すこ意すこ

日の色もゝあれハこゝ記園話幸藝草花の色なる出ゝうゝとゝあれハこゝ古例の

まふゝうゝあゐゝ川べゝうゝあゐゝ即紅花なるゝ紅花の新雞冠ゝいゝゝゝ

かゝいゝるゝゝべゝさゝ花の色なる出ゝゝいつゝてゝみゝゝてゝ出ゝゝいつゝ

てゝうゝぬゝ古人の例へゝゝこゝのゝハたゝい意ぬゝゝゝこのびゝてゝんゝゝゝ

類聚古集云、鴨頭草又作雞冠　此後ハ印のゝゝゝゝ

草云云、依此義者、可和月草歟

開花者雖過時有我戀流心中者止時毛梨

ゝくゝゝあゝ花ゝゝるゝゝきゝあゝしゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山振之爾保敝流妹之翼酢色乃赤裳之為形夢所見管

やまぶきのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

玉緒之絶而有戀之亂者死巻耳其又毛不相為而
たまのをのたえてあるこひのみだれは死まきのくのみぐまりてあはずして
きるのをたてとひれるときは八せんしゅうの集中ときの乱のつゐ詩
みせんしゅうか

玉緒之久栗縁乍末終去者不別同緒將有
たまをのくりよせつゝすえとをつひはゆきはわかれおなじをあん
むを佛よ要くしんハくりよせるといてゝまつひとあひ
信ゝるとゝ

片絲用貫有玉之緒乎弱亂哉為南人之可知
かゝいもてぬきてるたまのをよわしみだれやしまのんひとのしるべく
うゝなるもれば信ゝるとてぬるむのれもとふとハれといくん序の

玉緒之島意哉年月乃行易及妹爾不逢將有

たまのをのうゝ心ろやとしつきのゆきかたるまでいもあそばらむ
前の三島ハ長の詩ゆくちきこころやちくべしいう中せくゆこゝをくりてふ七月
のかるまくゆるあくて立べきとゝんむの信ハもくいくん柳べくいくれき宮ものこ島ハ
寓の詩くゆいうゝてこころハ別心哉八十かけとあう寓ゝ
せん方字の所十近乱ちうべし

玉緒之開毛不置欲見吾思妹者家遠在而
たまのをのあひゞもおのぶみまくほかわがもつハいへどほくあるて
詩よ要るむのるくきゆくるうんとゝ妹ハおゆもをくほく度しあい
ゞくきゝ

隱津之澤立見爾有石根從毛遠而念君爾相巻者
こかゞつのさハいつみちるハをねゆもとりておりよきみとあハまくハ
上ゝ信ゝ信泉在石根通念吾恋者とゝふ中されば立ハ出のこの

誤るなり、遠ハ偽字なり、遠の俗字なるべし

木國之飽等濱之忘貝我者不忘年者雖歷
きのくにのあくらのはまのわすれがひ　われハわすれじ　ねんハへぬとも

紀伊が太庄架村より飽等濱へ出る道あり　岩代の国にも有

水泳玉爾接有磯貝之獨戀耳年者經管
みづくるたまにまじれる　いそがひの　ひとりこひのみ　としハへつつ

此ハ海ぶれを云　いそ貝ハ石貝なり　鰒ハ和名抄に鰒魚名似蟾偏著石間乾可食とあり　上ハ如これと云ふるの序のこと

住吉之濱爾緣云打背貝實無言以余將戀八方
すみよしの　はまにより　いふ　うちせがい　まことなき　ことをもて　われ　こひめやも

もとみのえのたまにより　ふつせのひ　ひろきことを　いふ

石花貝の空に等るなり　詩に　ふつせのひ　ひろきことを　云

序のこと、東ハ偽なり　ものうたへ

伊勢乃白水郎之朝奥夕菜爾潛云鰒貝之獨念荷指天
いせのあまの　あさをゆふなに　かづくと　いふ　あわびの　ひとりおもひに　にさしてを

海人の事をいふ　海士の字なり　海の字　奥菜　海人

人事乎繁跡君乎鶏鳴人之古家爾相語而遣都
ひとごとを　しげみと　きみを　とりなく　ひとの　ふるへに　かたらひて　やりつ

ひとごとを　しげみとて

大海之荒磯之渚鳥朝名旦名見巻欲乎不所見公可聞

おきつみのあをそのもとゝあさりすなどりあさみのも
ゝはきはゝそのあをそはゝあるぬとのなるとんとくへとせるこゝそはゝづ仏の
をそはさゝゝづゝ、をるれわゝがこゝろ守良須能(ウラスノ)能(ノ)ゆ叙(ジ)とをゝ母ぎゝ、ゝ
ゝ

念友念毛金津足檜之山鳥尾之永此夜乎

おもへゝ、おもひかねつゝあしひきのやまゝゝのをのながきこのよを
ちゝ者ちゝゝ、ゝ者ゝの者ゝてゝゝゝ場ゝゝゝゝ

或本歌曰足日木乃山鳥之尾乃四垂尾乃長永夜乎一

鴨(カモ)将宿(ヒトリヌラン)

ゝゝゝ八ゝゝゝゝの為ゝゝ八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

里中爾鳴奈流鶏之喚立而甚者不鳴隠妻羽毛

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

白八色誤カ

伊勢能海後鳴来鶴乃音杼侶毛君之所聞者吾将戀八方
いそのうみゆなきくるたつのおとごろしきみのきこえはわれたひめやも
おとごろハ音のとどろきなり　ゆなゆゑとせれど穏
なし　きこえもとあり　ゆゑが誤れるか　杼侶ハ他作多の誤れこの
上ハ序なり　君が言づてさもきこえまばくこそんやとなり
吾妹兒爾戀爾可有年奥爾住鴨之浮宿之安雲無
わぎもこにこひにあらんとおきつもの　うきねのやすけくなき
暫のほねのあく安くねられぬハ如何なるなるうあんとみづうそうこ
これまでのハ言れハまでのハとまでなる仮名
可旭千鳥數鳴白細乃君之手枕未厭君
あさぬぐくちどりしたしく　しらたへのきみがたまくらいまだあきたらぬに
まだハあくまでなるなるとなり　あるれば　ちさらんハ拙し　桜

万解十一下　四十四

紐ヲ級ニ誤下月

小白ハ色の誤也

問答

眉根掻鼻火紐解待ハ方何時毛将見跡戀来吾乎
まゆねかきはなひもとけまてはいつもみんとこひこしわれを
鼻ひる佐白合者君ようたまでまくまつ　紐ひもとなるまでまくまつ
右上見柿本朝臣人麻呂之歌中但以問答故累載於茲
也

今日有者鼻之鼻之火眉可由見思之言者君西在来
けふあれば　はなのはなのひ　まゆゆみおもひしとハきみにあれなの
此初句ハまの誤なり　はなのはなのひとハ鼻之の之ハ助辭、
下ハ嚏也、故に鼻ひるとは詞なれバ、鼻火とは言ひ　ひとなりふや、
れど紐ひるまで、竹考べし、言ハ事なり　うねて鼻ひるまでせとおぼつのまう

[illegible]ばけてもなれば[illegible]まんぎつ禅[illegible]しと知るべし[illegible]れば[illegible]

べ〜、[illegible]れば[illegible]の例

右二首

音耳乎聞而哉戀犬馬鏡目直相而戀卷裳大口

おとのみをきゝてやこひんまそかゞみめにたゞにみてこひまくもおほく

[illegible]

此言乎聞跡乎真十鏡照月夜裳闇耳見

このことをきゝなんとゝもまそかゞみてれるつきよもやみるのみにつ

下の乎哉の字あ[illegible]

[illegible]べ〜といふ[illegible]

[illegible]

右二首

吾妹兒爾戀而為便無三白細布之袖反之者夢所見也

わぎもこにこひてすべなみしろたへのそでかへしてはいめにみえきや

[illegible]

吾背子之袖反夜之夢有之真毛君爾如相有

わがせこのそでかへすよのいめならばまこときみにあへるごとし

[illegible]

右二首

吾戀者名草目金津真氣長夢不所見而年之經去禮者
わがこひはなぐさめかねつまけるがくいあるもみえずてとしのへぬれば

真氣永夢毛不所見雖絶吾之片戀者止時毛不有
まけながくいめもみえずたえぬとわがかたこひはやむときもあらじ

右二首

浦觸而物奥念天雲之絶多不心吾念奥國
うらふれてものおもふあまくものたゆたふこころわがおもふおくに

浦觸而物者不念水無瀬川有而毛水者逝云物乎
うらふれてものはおもはずみなせがはありてもみづはゆくといふものを

右二首

垣津旗開沼之菅手笠雨縫將著日乎待雨乎曽經去來
かきつばたひぬまのすがてがさあめぬひきんひをまつあめをそへふる

臨照難波菅笠置古之後者誰將著笠有奥國
なにはすがかさ置古之後者誰將著笠有奥國

[illegible]

右二首

如是谷裳妹子待南左夜深而出来月之傾二手荷

かくだにもいもをまちなんさよふけていでこつきのかたぶくまでに

かくだにもいもをまちなんさよふけていでこつきのかたぶくまでに

木間徒移歴月之影惜徘徊爾左夜深去家里

このまゆかうつろふつきのかげをしみたちもとほるさよふけにけり

おもふにしたがひてこころをのべたるなり

右二首

捧領巾乃白濱浪乃不肯縁荒振妹爾戀乍曽居

たくひれのしらなみのよるあらぶるいもにこひつつそをる

[illegible]

万葉十一下　四十七

[illegible]

一云戀流己呂可毋

加敞良未爾君社吾爾捧領巾之白濱浪乃縁時毛無

かへらまゐきみこそわれにたくひれのしらなみのよるときもなし

こゝまゐハ妻中ニ却てもまいあぶてまろぶてのたとへなり

四句といふ二のるゝ所自へつけくそをるべし

右二首

念人将来跡知者八重六倉覆庭爾珠布益乎

おもふひとこんとしりせばやへむぐらおほへるふハにたましきまし

半ハ むぐらにおほいやしきやどにたまのまくらとしくぶむ

[illegible]

玉敷有家毛何将為八重六倉覆小屋毛妹與居者
たましけるいへもなふせんやへむぐらおろしやとをもてば
ちとれあり〻のちけきを表夜逢〻〻、とうてばハ居〻〻むん

右二首

如是為乍有名草目手玉緒之絶而別者為便可無
かくつつあるなぐさめてなのとのたえてわかれハたべなのるべ〻

手月ちよおちぐさめ所、まのみそ〻る逢ちなくり、むの伝ハ
たゆというん物自の〻

紅花西有者衣袖爾染著持而可行所念
くれなゐのたるなゐあらばこそもでをそめつけもちていぬべく思ふらゆ

持ちゆく〻〻ゆ、ゆ、ゆ、

梓弓束巻易中見判更雖引君之隨意

あづさゆみゆづるまきこのへちるのみてはきふひくともきみのまにまに

弓束の革ハ作るる時ゆとゝくるこのちるふ繋く女とこゝろこゝろを云

さてうちく減く成ゆたまられて、文よいひよるハあ〳〵むべきるもんぐわんの

のよるく寄られバどもそくかしりくとねいられき、葉中ハ古点のこゝく中

見判とあてゝそハしゝて、女のちゝくゝゝて、命のくゝ易くゝくゝくゝ

ゆゝで、文よ又弦よゝゝゝ、弦ハ月ゝのんふ月ゝがまゝふゝりゝくゝいゝゝ、いづ

ゝゝゝゝゝこの白ゝ弦ゝゝで、判のゝゝとかゝる不ゝ用ひゝる例ゝもゝ、必ゝ注ゝゝゝ

ゝ、ゝ、ゝ、ゝかゝゝゝゝん

右一首寄弓喻思

水沙兒居渚座舩之夕塩守將待後者吾社益

みさごゐるすゝのゆふしほまつらんよわハこそまされ

みさごゐる枝ゝ、水とゝ氷ゝゐるハ浦ゝ、これこゝゝゝゝゝゝれハ、夫と結んの妻と云

右一首寄舩喻思

山河爾筌守伏而不肯盛年之八歳乎五口竊舞師

やまがはにうへをふせてかをもあへずとしのやゝせをわがぬすまひし

和名抄筌 和名宇倍 捕魚竹筍也、筍取魚竹器也、さゝと六ゝの句もあれど、

此ゝゝゝてハちゝゝゝゝおゝゝゝゝゝゝ

あかものをぐくいけみづたふるもまけみづのくまわれこそあやも
すぐくふるさるのさえ池よ水の泡ゐは流ーやらん料よ偽の遣海
をなしたくあへ、その偽海へ行ふのあくあへ越るんハかくこそ云
なり、よる長浜越ハ行ふのかつもよるを

右一首寄水喻思

日本之室原乃毛桃本繁言大王物乎不成不止

やまとのむろのけもももとしげくいひてものをなるまじやまず

神名帳大和宇陀郡室生龍穴神社、和名抄城下郡室原あり、いづこふの、
毛桃ハ実よりもの、ちいさきもの、桃の実ハ
ふ、でいのみ、ちいさく、ハ毛ハ始めハ大きくなるも、いひ入くなるう
ハ遠なるなり、ハ毛ハ大きとてしのうるまるるハ成ないてハ、考七
くまやーかぎくのも桃ハ毛ハ、ちいさくなるもかいも

おのれ、木のるのるると、長の成よりもせてる三ハ集中ハ考へ

右一首寄菓喻思

真葛延小野之浅茅平自心毛人引目八面吾莫名國

まくずはふをのあさぢをこころゆしひとひのめやもこられなるふ

まくずはふ枯れ、半モ考る仮る草とよるを紅ハ考へ山ゆの浅茅ハ人を
かりそねるもよみ、ぼ茅をもよるを砂ゆひ紅ハあるを
て、他ー人のつるるーてひとるるハ得ぬをといふ、うまれ、茅ハ引くいるす
ハ集中ハ考へるれど、ぼ茅ハ引とるるハゆるを、かくハ引ハ刈の字の誤ふ
て、人るあやもるるの

三島菅未苗在時待者不著也將成三島菅笠

みーますげいまだなへたのうときまるいきてやもちるんみーまもぐさ

三島江ハ考へ上ハ、仰き女とる志ハて時と結るよりー他ー人る

[illegible]

三吉野之水具麻我菅手不編爾刈耳苅而將亂跡也

みよぬのゝみぐまのもゝとあまくふかちのゝうてみぐさちんとわ

みぐまハ水隈ゝ吉野ゝ水分ゝ[illegible]

[illegible]

河上爾洗若菜之流来而妹之當乃瀬社因目

かハのみゝあらふわのなのながれきていもがあゝちのせぶゝそよゝめ

上ハ未詳ゝ姉ゝよゝんといふん神ゝいるのゝ、孝平ゝ式にゝる名あゝ[illegible]

[illegible]

右四首寄草喻思

如是為哉猶八成牛鳴大荒木之浮田之杜之標爾不有爾

かゝてやなりやなりやちりなんおゝあきのゝうきたのもりのしめちゝよ

かくのゝくなりてゝくゝしてゝやゝ形ゝやつゝる成ちんゝ後世のちんとゝふゝ

と沿革ゝ[illegible]

[illegible]

よゝむべきゝのゝくゝしゝと箱ゝ[illegible]

ハ牛のゝうゝ字ちゝふ牛牛鳴也と省成ハ朽の誤ちゝんこの、ちゝふてハ

[illegible]

といふ、字ゝよゝむべき字ゝ[illegible]

大あゝき八神名帳ゝ大和宇智郡荒木神社あゝ、浮田の[illegible]

[illegible]

[illegible]

右一首寄標喻思

幾多毛不零雨故吾背子之三名乃幾許瀧毛動響二

いくばくもあらぬあゆをうけづをこがみものこゝろなきとぞおもふ

百年を八百年にすぎるこのよを、三八佛の、をるゝはまれなるよなのこゝろをうく

いろ、こゝろもあらぬものゆゑ問とぞこゝろをもつ

右一首寄瀧喻思

萬葉集巻第十一

010190519231